

中日新聞記事データベース

2014年10月14日 中日新聞 夕刊 夕刊社会 11頁

 再度本記事DBを検索

検索結果一覧に戻る

台風禍 東海各地に

浸水、停電 けが人も

日本列島を縦断した大型の台風19号は、十三日夜から十四日未明にかけて東海地方を通過し、十四日午前中も吹き返しの強風が続いた。今月初めの台風18号から間もない上陸で懸念された土砂災害による被害は、三重県南伊勢町で物置の半壊が確認されたのみ。ただ、各地で風にあおられて重軽傷を負った人もおり、交通機関の乱れで足止めを食った人たちからはため息も漏れた。

東海地方では十四日までに愛知、三重県で計四人が強風の影響で重軽傷を負った。激しい雨や風で住宅が床下浸水や停電したほか、各地で避難勧告や避難準備情報が出された。

愛知県半田市では、自宅の門扉を固定していた女性(87)が強風で転び、左足を骨折する重傷。名古屋市南区では六十代男性が転倒して軽傷を負った。三重県でも伊賀市の宿泊施設で従業員の男性(42)が屋外での作業中に風にあおられて脚立から落ち、左足首の骨を折ったほか、紀北町で自宅前の植木鉢を移動していた女性(73)が作業中に尻もちをつき胸椎を圧迫骨折した。

三重県内では、いなべ市の員弁川で十三日午後九時ごろ、氾濫危険水位を超え、東員町の住宅一棟が床下浸水した。津市と菰野町では六千八百九十六世帯に避難勧告が出され、自主避難も含めて千四百二十七人が一時避難した。

岐阜県でも岐阜市と大垣市で住宅三棟が床下浸水。岐阜、高山市などの千五十六世帯に避難勧告が出され四百四十六人が一時、公民館などで過ごした。愛知県では避難勧告はなかったものの、十三日深夜に一時六百三十二人が避難した。

中部電力によると、十四日午後零時半までに管内の延べ四千九百五十戸が台風19号の影響で停電した。三重県内で国道や県道の最大四十六カ所が冠水するなど一時通行止めになった。



新幹線で一夜

不安げな乗客

十三日夜から十四日未明に東海地方に最接近した台風19号。鉄道や空の便など交通機関にも影響が出た。

JR東海は十三日、管内の四百八十三本が運休・一部運休し、約八万二千七百人に影響した。名古屋駅では、目的地に到着できなくなった三十五人が新幹線車両で一夜を明かした。

大阪府豊中市の整骨院経営内田泰文さん(40)は、大阪行きのバスが台風で運休に。新幹線に乗ったが、帰宅できなかった。「始発で出ても、仕事に間に合うかどうか」と不安そうな表情を浮かべた。

出張先の津市に向かう予定だった東京都渋谷区の英語教師セバスチャン・ジョズビアックさん(31)は「自然のことなので仕方ない。もう少し早く出発するべきだった」と肩を落とした。

十四日は、JRの一部特急を除き各社とも始発から通常通りの運転となった。

中部国際空港(愛知県常滑市)では、十三日は国内線、国際線の計百十五便が欠航。十四日も航空

機の手配が間に合わないなどを理由に、午前八時時点で国内線十六便と国際線四便の計二十便の欠航が決まり、大幅な遅れも出ている。

愛知県内でのゲートボール大会を終えて、十日に戻る予定だった沖縄県浦添市の一行二十人は四日間、空港島内に足止め。島袋幸子さん(70)は「昨晚はロビーの床にマットを敷いて寝た。早く帰りたい」とうんざりした表情で語った。



列島縦断し勢力弱まる

日本列島を縦断した台風19号は、名古屋市全域で避難準備情報が発表されるなど、東海地方でも最大限の警戒を払ったが、目立った被害はなかった。名古屋大地球水循環研究センターの上田博教授(気象学)は「休日での人の流れも少ない中、列島縦断の間に勢力が弱まるなど好条件が重なった」と分析する。

今月初め、浜松市に上陸して首都圏を直撃した18号に対し、19号は早い段階で九州に上陸し、四国、本州と再上陸。東海地方を通過する際も18号よりやや北側のルートを通り、上田教授は「台風が九州、四国、本州と列島を縦断すると、東海地方に近づくまでに勢いは弱まる。東側の風の影響で海岸部は風が強かったが、内陸部はそうでもなかった」とみる。

また、台風の通過スピードが速かった点を挙げ「雨の持続時間が少なかったため、大規模な土砂災害も避けられたのでは」と推測。その上で「連休の最終日で人の流れも少なく、鉄道も早めに運休を決め、行政も的確に情報提供をしたことが奏功した」と話す。

Copyright (C) The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved.